

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名: 瀧澤由枝 所属: 山梨県立あけぼの支援学校 記録日: 2022年2月5日

キーワード: 余暇活動 音楽 自傷行為

【対象児の情報】

・学年 高等部1年 女子生徒

・障害名 肢体不自由 知的障害

・障害と困難の内容

四肢体幹が固く、屈曲萎縮が進行している。感覚過敏(触覚・視覚・前庭覚)がある。イメージしたり推測したりすることに課題がある。

・使用した機器

iPad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

「S先生みたいに、みんなの前で歌を歌いたい!」という夢を実現することができる。

4月の個別懇談で、Aの保護者より「現在利用している施設で、Aが歌を披露したいと言っている。学校で歌を教えてもらうことはできないか。」と相談を受けた。2年前、声楽を専門とし現在も演奏活動を行っている教諭Sが担任になったことで、Aは歌手への憧れをもつようになった。Aは、小学5年生から中学3年生までピアノを習っていたが、読譜や両手での演奏につまずきを感じていた。そんな折、新型コロナウイルス感染症の影響からピアノ教室を休むことになり、ますます歌を習いたいという思いが募っていったようである。

依頼を受け、学校として協力できることを担任間で話し合い、Aが夢を実現できるよう施設や家庭と連携しサポートしていくことにした。学校で教えてもらえることを知ったAはとても喜び、気持ちの高揚からか毎日していた自傷行為を3日間しない様子が見られた。夢中になれるものを見つけること、コンサートへの取り組みをきっかけに余暇活動を充実させることは、自傷行為の減少につながるかもしれないと考えた。加えて感覚過敏のためダイナミックな活動をあまりしてこなかったAにとって、自由に気持ちを表現できる歌は、ストレスの発散にもつながるのではないかと考えた。これらのことを踏まえ、教師のねがいとして以下の3つのねらいをたて実践を行うことにした。

①歌の学習以外にも、コンサートを行うために必要となる、関連する様々なことを学ぶことができる。

②卒業後も歌を披露できるよう、関係機関とのつながりをもつ。

③コンサートへの取り組みを通して、余暇活動を充実させる。

・実施期間 2021年5月1日～2022年1月31日

・実施者 瀧澤由枝

・実施者と対象児の関係 特別支援学校の担任

【活動内容と対象児の変化】

対象児の事前の状況

・動作をする際に身体に余分な力が入ってしまうため、疲れやすい様子が見られた。

・すべきことに気づかず、教師に声をかけられるまで行動できないことがあった。

・暇な時間に自傷行為(皮膚をむしる)をする様子が見られた。



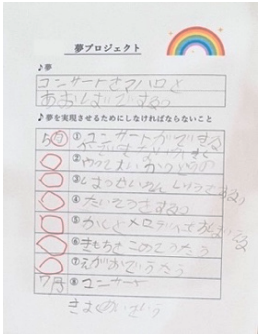

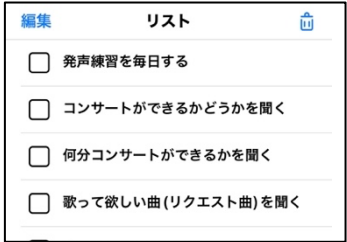




・自分から周囲の人に積極的に話しかけ、誰とも明るく関わることができるが、自信がないときや困っているときは、声

が小さくなってしまふことがあつた。

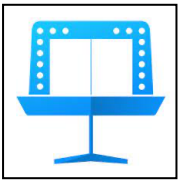
- ・向上心があり、意欲を継続させて活動に取り組むことができた。
- ・絶対音感があり、音楽を得意としていた。
- ・お笑いものまねが好きで、人やアニメキャラクターの声を真似ることが上手だった。

活動の具体的内容

♪施設や学校でのコンサート開催に向けての取り組み♪

活用したアプリ	活動内容
<p>「ToDo」 タスク管理アプリ</p>  <p>「メモ」</p> 	<p>やることリストの作成</p> <p>夢を叶えるために何をしなければならないのか、A と一緒にプロセスを考え、やることリストを作成した。やることリストは、はじめはプリントに記入しファイルに綴じていたが、ファイルの出し入れに支援が必要であり、時間も要することから、途中から「メモ」や「ToDo」にやるべきことを記入するようになった。</p> <p>やることリストの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 発声練習を毎日する <input type="checkbox"/> コンサートを開催することができるか施設の職員の方に聞く <input type="checkbox"/> 何分コンサートができるかを聞く <input type="checkbox"/> 歌ってほしい曲(リクエスト曲)を聞く <input type="checkbox"/> 伴奏の音源を用意してもらう <input type="checkbox"/> 歌詞カードを「メモ」で作成し「Piascore」に入れてもらう <input type="checkbox"/> 歌う曲の歌詞と旋律を覚える <input type="checkbox"/> どのように歌いたいと考え、音楽記号を歌詞カードに記入する <input type="checkbox"/> 歌詞に出てくる知らない言葉を辞書で調べる <input type="checkbox"/> 曲順を決める <input type="checkbox"/> 曲紹介を考え「メモ」に打ち込む <input type="checkbox"/> 曲紹介を「Piascore」に入れてもらう <input type="checkbox"/> プログラムを作成する(必要だったら) <input type="checkbox"/> リハーサルをする <input type="checkbox"/> 衣装を用意してもらう(必要だったら) <div style="text-align: right;">  <p>〈プリントで作成したやることリスト〉</p>   <p>〈「ToDo」で作成したやることリスト〉</p> </div>
<p>「VLLO」 動画編集アプリ</p>  <p>「カメラ」</p> 	<p>歌の練習、プログラムや衣装の準備</p> <p>音楽部に入部し、報告者とAが憧れる教諭Sがコンサートに向けてAに個人指導を行った(全5回)。教諭Sから指導を受けた様子は「カメラ」で撮影し、家や施設での練習に活用した。また、自分の演奏を撮影し振り返る際にも利用した。家や施設でも練習がしたいというAからの要望を受け、発声練習の動画を「VLLO」で作成しiPadに入れ宿題としてだした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>〈教諭SがAに指導する様子〉</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>〈発声練習の動画〉</p> </div> </div>

「Piascore」
スマートデジタル
楽譜リーダー



「メモ」



「Pokekara」
採点カラオケア
プリ



「YouTube」



「例解学習国語
辞典」



「カメラ」



「Piascore」に歌詞カードと音源を入れ練習に取り組んだ。「Piascore」は楽譜や音源、歌詞カードを一つにまとめたり、書き込みをしたりすることができるため、曲の学習や家での練習、コンサートで活用した。歌詞は、「YouTube」の動画を参考とし、A が「メモ」に打ち込み作成した。タッチペンを使用することもあった。音源は教師が演奏したものや購入したものを使用した。音源を用意している間、「Pokekara」や「YouTube」も活用し練習を行った。

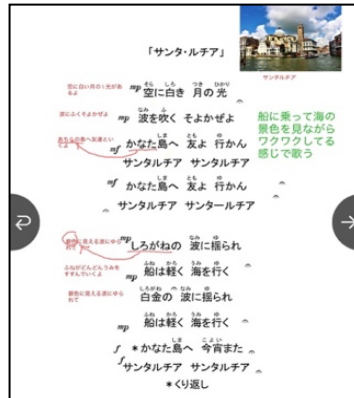
曲への理解を促すため、歌詞に出てくるAが知らない言葉を「例解学習国語辞典」で一緒に調べた。加えて、イメージがもてるよう映画の主題歌であれば、映像を観たり絵本を読んだりして曲の解釈を行うよう促した。また、色々な歌手の動画を「YouTube」で見比べ、歌手によって歌い方が違う事、自分が思う表現で歌って良いことを伝えた。

曲紹介は、はじめはノートに記入していたものを「Piascore」に取り込んでいたが、Aの文字入力スキルが上達したこと、書く文字よりも見やすかったため「メモ」に打ち込むようになった。

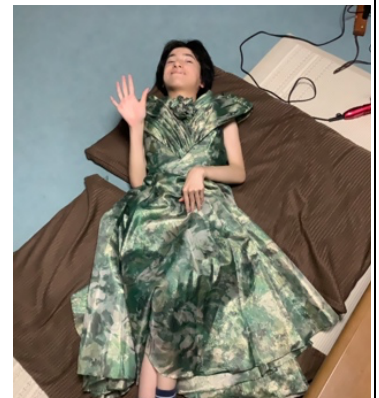
衣装や化粧などは、母と施設の職員の方が協力して準備をしてくれた。その様子を母が「カメラ」で撮影し見せてくれた。



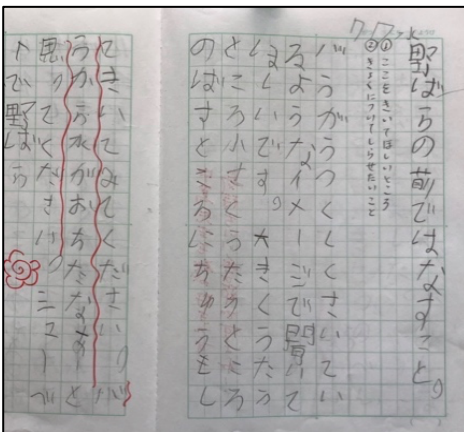
〈タッチペンで記入する様子〉



〈歌詞カードに歌詞の意味や
音楽記号を記入〉



〈衣装の写真〉



〈ノートに記入した曲紹介〉

さいごの曲は、トゥモローです。
トゥモローは、ミュージカル「アニー」の曲です。アニーは、明日がとても好きです。
明日もきっといいことがあるとかんじています。
でも、さみしくていやな事もあったそうです。
むねをはって歌いたいと思います。
聞いてください。トゥモロー
さいごまで聞いていただきありがとうございました。
これで終わります。

〈「メモ」に記入した曲紹介〉

「Canva」
画像デザインア
プリ



曲順を決め、「Canva」でプ
ログラムを一緒に作成した。出
来上がったプログラムは学校
で印刷し、教師や管理職、施
設の利用者の方々に配布し
た。

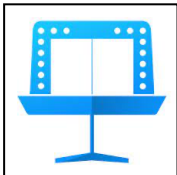
チケットや招待状は施設の職
員の方が作成してくれた。



「Zoom」
クラウド型会議
サービス



「Piascore」



コンサート当日

「Piascore」を一人で操作しコンサートが進行できるよう、何回かリハーサルを行った。
施設の会場準備は職員の方が行ってくれた。

学校で行われたクリスマスコンサートは、感染症予防対策のため「Zoom」で配信された。



〈施設 A でのコンサートの様子〉



〈施設 B でのコンサートの様子〉



〈音楽部でのコンサートの様子〉

♪山の都ふれあいコンサートへの取り組み♪

「ボイスメモ」
ボイスレコーダー



「ヤマハボーカロ
イド教育版」
歌作りアプリ



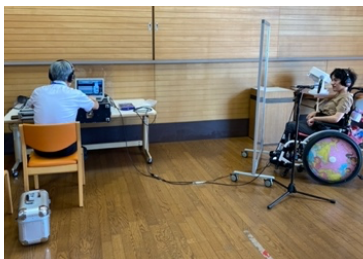
「GarageBand」
音楽制作アプリ



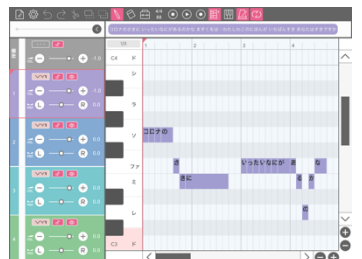
作曲、コンサートに向けての準備

11月にオンラインで開催される、山の都ふれあいコンサートの曲募集が7月にあり、施設でのコ
ンサートの準備と並行して A と共に作曲を行い応募した。たくさんの作品の中から A は『コロナ
の先に』という詩を選んだ。教師が弾くコード進行に合わせて一緒に旋律を考えた。A が作曲し
た旋律は忘れないよう「ボイスメモ」に録音した。作曲した旋律に歌や伴奏をつける作業は、「ヤ
マハボーカロイド教育版」及び「GarageBand」を活用し報告者が行った。

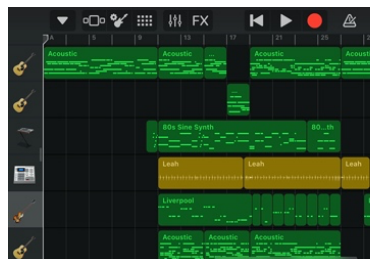
山の都ふれあいコンサートで応募した曲が採用され11月にYCC 県民文化ホール(大ホール)
でのコンサートに出演し独唱することになった。コンサートでは、事前に録音した音源(歌入り)に
重ねて歌うことになり、レコーディングや本番に向けて歌の練習を行った。レコーディングは、音楽
編集に精通する勤務校の校長先生により行われた。











〈レコーディングの様子〉



〈ボーカロイドで歌の音源を制作〉



〈伴奏音源の制作〉

<p>「Zoom」</p>  <p>「カメラ」</p> 	<p>作詞者との交流、振り付けの練習</p> <p>作詞者 H とボランティアの大学生がダンサーとして一緒に参加することになり、メールで送付された振り付けの動画を見ながら練習を行った。</p> <p>コンサートの主催者より、作詞者 H と A との交流を提案され、「Zoom」を使用しビデオ通話を2回行った。</p>  <p>〈ビデオ通話での交流〉</p>  <p>〈振り付けの動画〉</p>
<p>「YouTube」</p> 	<p>コンサート当日</p> <p>山の都ふれあいコンサートで、『コロナの先に』を独唱した。感染症予防対策のため、コンサートは無観客で行われたが、コンサートの様子は「YouTube」で配信された。</p>  <p>〈本番の映像〉</p>  <p>〈インタビューの様子〉</p>  <p>〈出演者との記念撮影〉</p>

対象児の事後の変化

①歌の学習以外にも、コンサートを行うために必要となる、関連する様々なことを学ぶことができる。

(プロセスをイメージし実行する力)

・はじめは、想いはあるものの、どうすれば夢を実現できるのかというプロセスの部分は漠然としていた A だった。しかし、報告者と共にやることリストを作成し、コンサートに向けて準備を行う中で、プロセスの部分を具体的にイメージすることができるようになった。クリスマスコンサートまでは、教師に促されて行動する姿が多くみられ、「今日は何をすれば良いですか?」と受け身的であった A だったが、徐々に自分でやることリストを確認しながら行動できるようになり、春休みに施設で行うコンサートの準備は、主体的に教師に依頼したり曲の練習をしたりする姿が見られている。

(表現する力)

・歌詞の意味を知り声で表現することは、辞書を引いたり絵本を読んだりすることだけでは難しいこともあった。しかし分からない歌詞の意味を調べ記入したり、音楽記号をつけたりすることで、曲に対する A などのイメージをもち歌を発表することができた。

・夏休みに行われた施設のコンサートでは、ユーチューバーの“まなまるさん”こと永藤まなさんのように、クレヨンしんちゃんの真似をして歌いたいとアイデアをだし、ものまねやお笑い好きの A ならではのコンサートを計画し、大好評を得ることができた。その他、音楽部のクリスマスコンサートでは報告者がフルートで参加し、一緒に演奏するといった取り組みも行った。春休みに施設で行うコンサートでは、あこがれの教諭 S と一緒に歌うことを A が企画し、現在準備を進めているところである。

(iPad の基本的操作スキル)

・曲紹介や歌詞を「メモ」に打ち込むようになり、50音キーボードでの文字入力スキルが上達した。練習や本番で活用した「Piascore」は、音源を入れたり歌詞カードを取り込んだりするのは報告者が行ったが、練習やコンサートでの操作は

A 一人で行えるようになった。その他「YouTube」や「Safari」で観たい動画を検索すること、「Pokekara」や「カメラ」の基本的な操作が一人でできるようになった。

②卒業後も歌を披露できるよう、関係機関とのつながりをもつ。

(施設とのつながり)

・9月の関係者会議で、AB の施設の職員の方から、A が卒業後に自分の才能を活かし、引き続きコンサートが行えるよう取り組んでいくことを伝えられた。卒後も、卒業生として施設に出向き、コンサートをするとのことだった。

(山の都ふれあいコンサートの方々とのつながり)

・山の都ふれあいコンサートへの参加により、主催者や作詞者 H、大学生とつながりをもつことができた。楽屋は作詞者 H とボランティアの大学生と一緒にだったが、大学生に髪の毛をセットしてほしかったようで、普段こういった場面では小さい声で話すことの多い A が「髪の毛を結んでください」と大きな声で依頼することができた。大きな舞台上で歌ったこと、学校や施設以外の人と触れ合えたことはとても楽しかったようで、来年も出たいと意欲を見せている。コンサートを作り上げる、ふれコン合唱隊にも参加を希望しており、今回の経験が新たな音楽活動へとつながるきっかけとなった。

③コンサートへの取り組みを通して、余暇活動を充実させる。

・コンサートに向けての準備は、主に放課後に施設で取り組んでいたが、家庭でも iPad を活用していたようで、一人で過ごす時間に好きな音楽を聴いたり、動画を観たりして楽しんで使用することができた。これらは次のコンサートの選曲やアイデアを出す際にも活かされた。

【報告者の気づきとエビデンス】

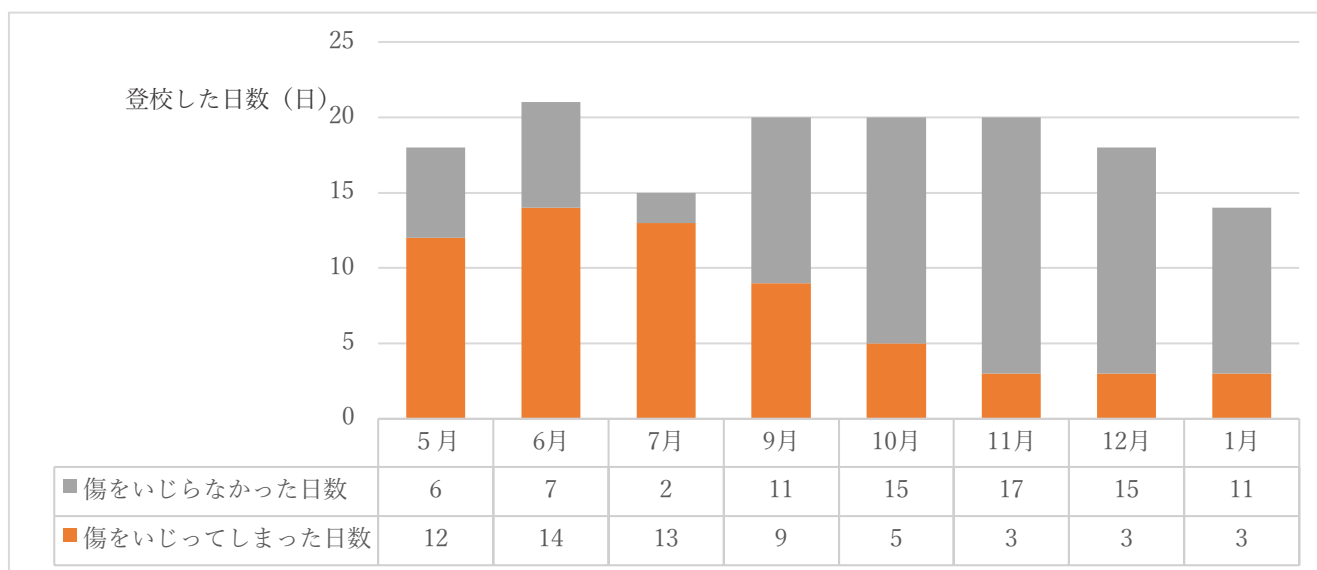
「S 先生みたいに、みんなの前で歌を歌いたい!」という想いを A が母に伝えたことからはじまった取り組みだったが、周りの人々の協力を得ながら、施設での単独コンサートに3回、音楽部のクリスマスコンサートと山の都ふれあいコンサートに1回ずつ出演し、多くの人々の前で歌を披露することができた。A の強みは、「○○がやりたい。」という自分の思いを発信できる場所だと思う。その力が今回のコンサートの実現につながったと考える。ただ、協力者が主導で行っている状態では、その人達がいなくなってしまうときに、コンサートを開催することが難しくなってしまう。そのため、今回の実践では、「夢を実現するために何をしなければならぬのか」というプロセスの部分についても計画できるようになってほしいと考え指導を行ってきた。実践を通しその力を育むことができたことは大きな成果だったと感じている。

今回の取り組みでは、iPad をかなり活用した。A が iPad を使用する最大のメリットは、便利さであると感じている。A は肢体不自由の障害があるため健常児と同じようにスムーズに動作をすることは難しく、一つ一つの動作に時間がかかってしまう。例えば、iPad を使用せずに実践を行った場合と使用して実践を行った場合、以下のように用意する物及び必要な動作に違いがでてくる。

	iPad を使用しない場合	iPad を使用する場合
用意する物	 <p>CD プレイヤー CD 楽譜 筆記用具</p>	 <p>iPad</p>
必要な動作	<ul style="list-style-type: none"> ・CD と CD プレイヤーを用意する。 ・CD プレイヤーに CD をセットする。 ・ボタンを押し操作する。 ・楽譜を用意する。 ・筆記用具を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad を用意する。 ・画面をタッチする。 

iPad を使用しない場合、音源の CD や CD プレイヤー、楽譜や筆記用具が必要となり、準備に多くの時間を費やしたり他の人の助けが必要となったりすることが予想される。またこれらを準備するための動作を行う度に身体に緊張が入り、体力を消耗してしまうことが考えられる。しかし、iPad を活用すれば、これらの物や付随する動作を省いて、自分ですぐに歌の練習や発表をすることができる。これは、iPad を活用する最大のメリットであると感じた。アプリに関しては、様々なものを試しながら、A が使いやすいものを選択した。「Piascore」はメトロノームや録音、音楽記号の書き込みができるなど、曲の学習やコンサートの際に適したアプリであると感じた。しかし、音源や歌詞カードを取り込むのが、A にとっては少し複雑で教師の力が必要だった。今後一人で手軽に練習したりコンサートの準備をしたりすることを考えると「YouTube」のカラオケ動画や「メモ」を活用していく方法もあると考えている。このように、生徒に適した様々な方法を教師が提案できることが iPad の活用において必要であると感じた。

次にコンサートへの取り組みと自傷行為との関係について述べる。エクセルで自傷行為の様子を観察し記録をつけていた結果を図1に示した。



(図1) 学校で自傷行為を行った日数の推移

9月を堺に、学校で傷をいじらなかった日数が傷をいじってしまった日数を上回るようになった。このきっかけとなったことが2つある。1つ目は、担任が A に対する指導方針を変えたこと。もう1つは、山の都ふれあいコンサートに参加したことである。7月までは、ストレスの現れとして傷をいじることを許容する指導方針だった。しかし、心理士の助言を元に、傷とストレスとを切り離して指導するようになり、「ストレスがあるから傷をいじって良いわけではない」と伝えたり、「我慢できなくて、傷をいじっちゃうんじゃないの〜?」などわざと挑発的な声掛けをしたりするようになった。これが A の向上心に火をつけたようで、「絶対にいじりません!」と発言し、そこを境に傷をいじる日が減少しはじめた。また、山の都ふれあいコンサートで面識のない多くの人達から「きれいなお姉さん」と容姿を称賛されたこともとても嬉しかったようで、さらなる減少へとつながった。コンサートへの取り組みが直接自傷行為の減少につながったわけではないが、やはり暇な時間が長くなると傷をいじってしまいがちなので、余暇活動を充実させていくことは今後も必要であると感じている。これまでの余暇の過ごし方に加え、作詞や作曲をしたりするなど活動のバリエーションを増やしていくことで、よりいっそう自傷行為が改善されることを期待する。

今回の実践では A の夢の実現に向けて、施設の職員の方と連携したり山の都ふれあいコンサートのスタッフの方々とつながりをもったりすることができた。今後も引き続き、A が特技を活かし自己実現ができるよう、A に関わる方々と協同しながら支援を継続していきたい。